

# 「保育表現技術 器楽Ⅱ」実習での音楽活動から考える ピアノ演奏技術のあり方

The way of the pianism to think about from music activity in the  
“childcare expression technique instrumental music II” training

深 谷 悠里絵\*

Yurie Fukaya

In kindergarten training carried out by a class of “childcare expression technique instrumental music II” in June by 42 students, I heard it about music handed as a problem from the garden. In addition, I want to think about measures in the future whether you make what kind of preparations in the class including music handling with a fact by the music activity of the kindergarten which asked an active kindergarten teacher, laborer taking in music at time of the life and being careful. The music activity corresponded to “expression” in the kindergarten education point, but understood that I was related to various fields. I analyze it about ties and want to consider what kind of field you are related to about the way of piano accompaniment and the pianism.

## はじめに

筆者は所属する幼児教育学科、2年生「保育表現技術 器楽Ⅱ」の授業を受け持っている。この授業で学生は、それぞれ担当の教員から個人レッスンを受け、弾き歌いに取り組むことが課題とされる。年間最低でも15曲に取り組む、合格することが単位取得の1つの条件となっている。本学では、入学時ピアノは必ず弾けることが課題とされていないため、学生のレベルは様々であるが、幼稚園教諭・保育士の免許を取得するためそれぞれの課題に取り組んでいる。

また、1年生の時には観察実習が主だったのに対し、2年生では幼稚園実習・施設実習・保育園実習の実践的な部分実習・責任実習に取り組む学生が多くいる。

実習先で歌を歌う時間、ご挨拶の歌、お弁当や片付けの時間を知らせる合図に使う歌など実習前に取り組んでいかなければいけない曲が園から課題として渡され、学生は実習に間に合うように準備していく。

今回筆者が個人レッスンを受け持つ42名の学生から、6月に実施された幼稚園実習において、

---

※ 幼児教育学科

課題として園から渡された曲について聞き取りを行った。曲目の集計と、実習を終えての感想から「幼稚園でその曲をどのように園児と歌ったのか」「どんなことが必要だったか」をまとめていく。聞き取りは、学生によって実習期間がそれぞれ違うため実習から戻った最初のレッスンの時間に行った。

また現役幼稚園教諭から伺った、幼稚園の音楽活動で実際に取り扱っている曲、生活の時間に音楽を取り入れる工夫や気を付けていることなども交えながら、授業においてどんな準備ができるのかこれからの対策を考えていきたい。

さらに、1989年に幼稚園教育要領が改訂され、「ねらい及び内容」が6領域から5領域となったことにも注目し、音楽活動は、「保育表現技術」の内容から考えると「表現」に該当するが、他の4領域の内容を確認していくと、「表現」が単体で考えられるものではなく、様々な分野に関連していることが分かってきた。どのような分野が関連するのか、結びつきについて分析し、ピアノ伴奏やピアノ演奏技術の在り方について検討していきたい。

## 1. 幼稚園実習で幼稚園から課題とされた曲と取り組み

1年生の時に、「保育表現技術 器楽Ⅰ」という授業で、「おはようのうた」「おべんとう」「おかえりのうた」「さよならのうた」に取り組んでいるため、2年生の実習でこの課題が出された幼稚園が多くみられたが、心配なく準備することができた。

その他に課題とされた曲については以下のとおりである。

・かたつむり……………	11名	・かえるのがっしょう……	9名
・あめふりくまのこ……	6名	・しゃぼん玉……………	5名
・とけいのうた……………	4名	・すてきなパパ……………	2名
・大きな古時計……………	1名		
・季節の歌・唱歌なし(園独自の曲) ……	12名		
・歌なし……………	1名		

6月ということもあり、季節に関連した曲、父の日や時の記念日など行事に関連した曲など多く挙げられていた。楽譜は、幼稚園から楽譜をいただく場合と、自分で用意するように指示がある場合とに分かれる。ピアノを弾くのが苦手な学生にとっては、自分のレベルに合わせて楽譜を準備し、弾きやすいように伴奏の部分をコードや単音にするアレンジができるが、幼稚園から楽譜をいただいた場合は、その楽譜通りに弾かなければならない難しさが出てくる。

打ち合わせで曲が決まって、実習までの間に練習すること、その間にレッスンが少ないこと

から、ピアノを弾けるようにすることに精一杯になってしまい、曲想や表現していくところまでもっていくには時間的な面で非常に厳しいのが現状である。実際、実習に行ってみて、ピアノを使った音楽活動がどうだったのか、それぞれ聞き取りをしたので、まとめてみる。

#### 実習を終えて音楽活動で学生が感じた反省点

- ・ピアノを弾いて一緒に歌ったら、子どもたちも楽しそうに活動してくれた。
- ・みんなで何度も楽しく歌うことができた。
- ・ピアノを1箇所間違ってしまったら、取り戻せなくなってメロディ（右手）だけ弾いてなんとか乗り越えた。
- ・ピアノを弾くことに一生懸命で全然子どもの方を見れず、指導が十分にできなかった。
- ・途中でピアノが弾けなくなってしまったが、「先生昨日より上手になってる」「大丈夫」と園児に励ましてもらった。
- ・実習に行く前は、不安しかなかったがいろいろな方のご指導・ご助言もありなんとか乗り切ることができた。
- ・課題となった曲がたくさんあり準備をしていたが、あまりピアノを弾く機会がなく、その場で臨機応変に動かなければいけないことがたくさんあった。
- ・「あめふりくまのこ」は曲も歌詞も長いので、早く弾いてしまった。
- ・「かえるのがっしょう」を歌ったが、短くてあっという間に終わってしまうので、繰り返しで歌い、2回目は手や体を動かして歌った。

振り返りを行うと、練習通りできた学生、緊張で思い通りにできなかった学生と様々な感想が挙げられた。事前にどれだけ準備の時間が持てるか、実習でどんな状況が考えられるか、子どもたちの反応を伺いながら、どのようなことが起こり得るか、学生と曲を通して一緒に考える時間も授業の中で設けていきたい。

「あめふりくまのこ～」の感想にあるように、ただ歌うだけで終わってしまわないような工夫、歌詞から風景や描写が想像しやすいので、「雨が降ってくる」「のぞいてみる」「お水を一口、おててですくって飲む」「頭にはっぱをのせる」など、すぐにできそうな手の動きを取り入れることで、物語が具体的に想像でき、また場面や気持ちを考えて歌うことで園児と共有できる大切な要素が新たに生まれるのではないかと推察する。

## 2. 幼稚園で働く先生から伺った園での音楽・表現活動

8月中旬に福島県内で30年幼稚園教諭をし、今年から副園長をされているAさんに、幼稚園

の生活の中で行っている音楽活動について話を伺った。Aさんは、幼稚園生活の中で季節に合わせた歌や手遊び、楽器を使った音楽活動をたくさん行ってきた。歌を通して、季節の移り変わりを教え、みんなと音楽活動をすることで気持ちを1つにしていくことを学ぶ。「表現」をする楽しさを幼児期から大切に活動していると話していた。

また、幼稚園教諭の世代が若くなるにつれ、季節関係なしに流行りの歌や音楽を取り扱う場面が増えてきてしまっているようだ。今どきの音楽は、子どもたちは喜び楽しんで取り組むそうだが、そればかりになってしまわないよう、季節の歌や長く残ってきた唱歌など大切にずっと教えていってほしいと願っていた。

自分たちが歌ったり楽器を演奏するだけでなく、自然の音を聞かせること、園に咲いている花・育てている野菜などから感じられることも大事にされていた。どうやったら楽しい中でも学びにつながっていく活動ができるか子どもと向き合い、活動されているのを感じた。

学生が6月に課題として出された他に、保育現場では月ごとにどんな曲が音楽活動で扱われることが多いのか、お話を伺う中で取り上げられた曲をまとめてみる。(表1)

表1

	季節の歌・手遊び歌
4月	チューリップ
5月	こいのぼり・ことりのうた・おかあさん
6月	かえるのがっしょう・かたつむり・すてきなパパ・あまだれぼったん
7月	しゃぼん玉・オバケなんていないさ・たなばた
8月	(夏季休業)
9月	うんどうかい・とんぼ
10月	赤いもみじ・かまきりじいさん
11月	どんぐりころころ・まつぼっくり
12月	あわてんぼうのサンタクロース・北の国から・お正月
1月	雪のペンキ・カレンダーマーチ
2月	豆まき・雪・雪だるまのチャチャチャ
3月	春がきた・うれしいひなまつり

「おかあさん」や「すてきなパパ」は母の日や父の日、保育参観などに合わせて似顔絵を描いたり、行事と併せて取り組むことのできる曲。「ことりのうた」や「あまだれぼったん」「赤いもみじ」「かまきりじいさん」は手遊びをしながら子どもたちもとても楽しそうに歌っているとAさんは話す。繰り返し歌っていくと、自然と歌も動きも覚えていく。季節によって、情景が想像しやすい歌を多く取り扱うことで、季節の変化も一緒に楽しく学んでいくという、楽しい中にも学びを、という事はこういった工夫からも取り入れられることがわかる。

### 3. 幼稚園教育要領において「表現」と5領域の関わり

幼稚園教育要領は、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の5領域によって内容が示されている。その中で、音楽活動は「表現」、[感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする]に分類されているが、幼稚園教育要領第2章「ねらい及び内容」を確認してみると、関連していることがわかる。

領域「人間関係」<sup>1)</sup>との関連は、「内容」の「(1)先生や友達と共に過ごすことの喜びを味わう」「(4)いろいろな遊びを楽しみながら物事をやり遂げようとする気持ちを持つ」「(5)友達と積極的に関わりながら喜びや悲しみを共感し合う」「(7)友達のよさに気づき、一緒に活動する楽しさを味わう」「(8)友達と楽しく活動する中で、共通の目的を見いだし、工夫したり、協力したりなどする」というように、遊びや生活していく中で、人とのかかわりを深めるなど人間関係を形成していく手段として「人間関係」と「表現」は深い結びつきがある。

また「環境」<sup>2)</sup>においても、「内容」の「(6)日常生活の中で、我が国や地域社会における様々な文化や伝統に親しむ」と「内容の取扱い」で「(4)文化や伝統に親しむ際には、正月や節句など我が国の伝統的な行事、国歌、唱歌、わらべうたや我が国の伝統的な遊びに親しんだり、異なる文化に触れる活動に親しんだりすることを通じて、社会とのつながりの意識や国際理解の意識の芽生えなどが養われるようにすること」と「表現」の中でも音楽と結びつきが欠かせないものであることが読み取れる。

1989年に幼稚園教育要領が改訂され、「表現」<sup>3)</sup>という項目ができたが、この「表現」の意味するところは、絵を描くことや粘土などで形のあるものをつくること、歌を歌うことや楽器を鳴らすこと、音楽に合わせて身体を動かすことといった特定の活動や媒体に限定されるものではなく、子どもから発せられるさまざまな表現のあり方全体を含んでいる。子どもから発せられる感情や態度、表情などを感じ取り、友達と共有していくことで活動の楽しさ、達成する喜びなどが芽生えていくのではないかと考える。

#### まとめ

課題として出された曲や、就職試験で取り組まなければならない曲は、どうしてもピアノの技術を中心に指導しがちだったが、保育現場では、子どもの表現する姿勢や子どもの自由な発想を引き出すこと、音楽に合わせて手や体を動かしたり、子どものもつイメージから表現の幅を広げていくことが大事だということが実習を終えた学生の感想からも感じる事ができた。

また、保育内容「表現」の課題において、「ピアノの演奏技術～略～技術の獲得そのものが

指導の目標にすりかわっている状況も見られます。この状況は、養成校の教授内容だけではなく、園での活動においてもいえることです。子どもの発達に対応していない高度な曲の歌唱や器楽合奏～略～などの保育実践は、専門的な分野の取り組みが行われがちで、子どもが表現する過程や表現そのものを楽しむ工夫ではなく、完成したものの質の高さに保育者の視点が変わっていくこともあります。』<sup>4)</sup>と拳がっているように、ピアノ技術を向上させるための指導はもちろん必要なことではあるが、それに加えてできること、やらなければならないことを取り入れていきたい。

幼稚園教育要領、「表現」の「内容の扱い」〔(2) 幼児の自己表現は素朴な形で行われることが多いので、教師はそのような表現を受容し、幼児自身の表現しようとする意欲を受け止めて、幼児が生活の中で幼児らしい様々な表現を楽しむことができるようにすること。〕<sup>5)</sup>とあるように、ただピアノに合わせて歌うだけではない表現力、音楽活動の工夫、行事や季節に合わせた選曲など、学生のうちにレパートリーの数や材料を、増やしていけるような授業内容や対応できる力を指導していきたい。

#### <引用文献>

- 1) 文部科学省：幼稚園 教育要領(平成29年告示) 東山書房 2018年 23頁
- 2) 文部科学省：幼稚園 教育要領(平成29年告示) 東山書房 2018年 24頁
- 3) 文部科学省：幼稚園 教育要領(平成29年告示) 東山書房 2018年 27頁
- 4) 杉田啓三：保育内容「表現」平田智久 小林紀子 砂上史子編著 ミネルヴァ書房 2012年 198頁
- 5) 文部科学省：幼稚園 教育要領(平成29年告示) 東山書房 2018年 28頁

#### <参考文献>

- 1) 文部科学省：幼稚園 教育要領(平成29年告示) 東山書房 2018年
- 2) 杉田啓三：保育内容「表現」平田智久 小林紀子 砂上史子 ミネルヴァ書房 2012年
- 3) 文部科学省：幼児理解に基づいた評価 平成31年3月 チャイルド本社 2019年
- 4) 深見友紀子：保育所 こども園 幼稚園 採用試験へ向けて みんなが知りたい! 音楽実技対策ヤマハミュージックエンタテインメントホールディングス出版部 2018年
- 5) 小泉文夫：音楽の根源にあるもの 平凡社 2006年
- 6) 太田央子 中山文 渡邊康：保育活動における童謡・唱歌の機能 椋山女学園大学教育学部紀要 2018年
- 7) 上田豊：童謡・唱歌、子どもの歌を再考する—風景をキーワードに— 吉備国際大学研究紀要 2017年